



# Isis

# Isis

## 全てのごとは感動によってはじまる

開発は感動からはじまる、デザイナーニールパテルのこの哲学に基づいてアヴァロンスピーカーは設計されます。彼の理念は、音楽を創り出す音楽家と聴き手との間に精神の融合、連帯感を感じとれる作品を作り上げることです。

どのジャンルの音楽を再生しても、演奏会場にいるのではないかという心地良い錯覚を聴き手に起こさせるスピーカーを作ること。それがアヴァロンの制作動機であり、起業当初から堅持する経営哲学です。サウンドステージの表現や焦点フォーカスなど、困難とされていた大型スピーカーにおいて、その考えは欠けることなく受け継がれています。アイシスはステレオアンプ一台でドライブできるアヴァロンスピーカーとしては最大サイズとなりましたが、大型スピーカーにはこれまでなかった肌理の細やかさ、やさしさ、またトランジエントスピード、ハイスピードベース反応など全ての面でアヴァロンの血は流れています。

## スピーカー開発に関わるものは音楽を愛する人間でなければならない

音楽演奏の再創造を真に行うには、スピーカー設計者の音楽に対する理解と体験が重要な要素となってきました。細かな部分まで聴き込んで、ディテールを積み上げ、全体的な音像と音楽表現を判断する。音に編まれたその細部まで見極めてこそ、音楽を完全なるかたちで再現するスピーカーを作れるといえるのです。

不思議と思われるかもしれませんが、アイシスの開発理念は手の込んだアートといわれる製品を目指すのではなく、判断基準を明確にするツール、もしくは技術手段としてのスピーカー開発にあります。他とは比較にならない素晴らしい芸術作品を創り出すインスピレーションは、アイシスプロジェクトに必然的に伴っている名状し難い繊細なレベルの問題探求を反映することになります。単純な技術面での回答、たとえば狩野派の屏風を制作するための材料は何かという問いに対して紅、金箔、藍などの顔料と和紙などと答えることは、その作品を創造した芸術家の感情や表現意欲などにはあくまで言及していないということをお忘れはなりません。スピーカー設計のおもしろさは、ユニットのメーカーやネットワークの技術よりも、設計者の感性によって音がつくられていくということに尽きます。

## 本質はディテールに宿る

アイシスに应用した最新技術はその基本設計から制作方法までその全課程に渡っています。各ドライバー、特にウーファーでは希土類元素、ネオジウム磁気構造を採用し、システムとしてはそれを応用した世界初のトランスデューサーとなりました。その恩恵によって混変調歪み、位相歪みとも大きく低減させることができました。配線

材は冶金学からの検証とワイヤー自体のノイズレベルの低さを主体として独自に研究開発されたものです。クロスオーバーに関しては、このような微細レベルまで検討した製品は今までなかったといえる程の深い測定と研究開発を行いました。各ドライバーへの電流伝達とコントロールは今までのネットワークよりも強力になっています。この粘り強くデリケートなネットワークができたおかげで、電圧ソース、カレントソースアンプのどちらを使ってもアイシスを90dBの音圧でドライブすることが可能になりました。これはトランジエントの上限から見れば10dBも増加していることとなります。キャビネット構造、形状とも白紙から設計し直しましたが、システムのノイズフロアレベルを深くする振動分離テクノロジーはアヴァロンの伝統です。アイシスは完全な位相反応、適切な制動(ダンピング)、そしてピンポイント定位の正確さ、ディスパージョンの各再生帯域における整合性、ノイズレベルの低さという初期の技術目標を完全にクリアしました。このような要素を統合するための複雑なコンピューター解析、細部まで気を配った物理学的、電気学的な分析とのコラボレーション、可聴帯域を超えての位相反応整合は、理想を求め長期に渡る試聴と練りに練った音作りによって完成したアヴァロン自信のクロスオーバーネットワークです。

ノイズフロアレベルを極限まで下げるといえることは、音と音との間を深い静けさで掘り、透明な層に向かっていくことです。それによってサウンドステージは明晰に描かれ、ラージフォーマットの写真のような、線の引き立つフォーカスと細やかなグラデーションを再現し、トランジエント特性を高めます。ダイナミックレンジを大きくとることによって、ステージ表現を透明感、明晰性のあるものにし、周波数帯域のムーブメントにも関わらず引き締まったフォーカスを再現します。同時に時間軸位相再現性の正確さ、トランジエント精度という音楽のエッセンスを楽器の自然な音色を添えてお届けします。血の通った音楽の高度な再現を求めるには、最新テクノロジーに加えて、心温かい人間の遊る情熱によってのみ可能であるとアヴァロンは確信しています。

動的(アクティブ)測定技術は実際の音楽状況におけるスピーカーの実力をあらわにします。この測定技術を通じて、システム全体に関わる電流飽和効果は大幅に低減させました。クロスオーバー回路における正確な位相が達成でき、ドライバー間のジッター(ドライバー間におけるミスタイミング)は実質的に排除できました。これらテクノロジーの音質的な成果は、入力信号の強弱に関わらず倍音構成と定位を維持する安定した、しかもしっかりとピントの合った視覚的イメージの再現性の上に現れてきます。演奏家の気配を感じさせる絶対的な実在感、その背景の色に染まらない静けさで、自然に構築される三次元的な奥行き、高さ、広さ。それをはっきりと再現するイメージング、これこそがアヴァロンの絶対基準です。

この基準を満たした時点で、アイシスは技術的に最も洗練されているスピーカーといえることができます。アイシスの技術レベルに到達するスピーカーは、いや、これに近いパフォーマンスを行うスピーカーでさえ、現状では得られないだろう、とアヴァロンは確信しています。アヴァロンのテクノロジーと感性が、音楽の楽しさや奥深さをリスナーの皆様にお届けし、音楽を介して皆様の琴線に触れることができれば、私たちは大変嬉しく思います。



### Specifications

ドライバーユニット	25mm ダイヤモンドトウィーター 180mm セラミックミッドレンジ 330mm ノメックス・ケブラーコンポジットウーファー×2
能率	90dB (2.83v/1m)
インピーダンス	4Ω (ノミナル) 最低3.6Ω
周波数帯域	20Hz - 45kHz (+/-1.0dB 無響室測定)
推奨アンプパワー	50 - 750w
入力	バインディングポスト 2ポジション
サイズ	368mm(W) × 1,524mm(H) × 432mm(D)
重量	95kg 1機



このカタログに記載の仕様、規格、および外観などは改善のため予告無く変更することがあります。また、図版の色彩は印刷インキや撮影条件などにより、実際の色と異なる場合がございます。あらかじめご了承下さい。

